

<p>事案名</p>	<p>沼田市の事案 (群馬県10-2)</p>
<p>分類</p>	<p>生産・保有 廃棄・遺棄 発見・被災・掃海等処理 現在の状況</p>
<p>資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『本邦化学兵器技術史〔年表〕』1957年〔1〕 ・『朝日新聞』平成14年8月29・30日〔2〕 ・『赤城村歴史資料館紀要』第2集・第3集〔3〕 ・『沼田陸軍病院記念誌』〔4〕 ・『陸軍習志野学校』昭和62年〔5〕 ・『『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について(報告)』平成15年8月29日〔6〕 ・『『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について(報告)』平成15年10月9日〔7〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス等の処理の状況(14.6)」〔8〕 ・『朝日新聞』平成14年8月30日〔9〕
<p>資料内容概要</p>	<p>群馬県沼田市には毒ガスの研究を行う第六陸軍技術研究所赤城分室(沼田兵舎)と、毒ガス部隊である迫撃第1連隊が存在し、赤城演習場では毒ガスを用いる演習が行われた。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沼田市には終戦時に、毒ガスの研究をしていた第六陸軍技術研究所赤城分室(沼田兵舎)があり、試験用材料を管理していた〔1〕〔2〕。 ・沼田市には、昭和16年12月以降に、迫撃第1連隊が島根県松江から移駐した〔3〕〔4〕〔5〕。 ・同県埋蔵文化財事業団専門員(〔3〕の一部を執筆)の情報として、「赤城演習場(沼田市・昭和村)は、迫撃第1連隊(東部第41部隊)と陸軍習志野学校が共用した毒ガス専用の演習場であった。また、沼田陸軍病院にも毒ガス関連機材があり、終戦時に処分された。ただし、いずれについても実態は不明である」との情報を得た〔6〕〔7〕〔9〕。 <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・匿名で沼田市の山中に、旧軍の作った毒ガスをドラム缶に詰めて埋めたという話を15年程前のある人から聞いたという証言と、15年程前に毒ガスの開発していた者から聞いた話だが、沼田市内に毒ガス製造の工場があり、終戦後(昭和20年8月)ドラム缶に詰め山中に埋設したという証言が得られた〔6〕。 <p>発見・被災・掃海等処理情報</p>

- ・昭和31年5月25日から26日にかけて、群馬県沼田町（赤城演習場）で発見された不明（弾）1発が海洋投棄されたと記載されている〔8〕。

現在の状況

- ・赤城演習場跡地は、現在山林、原野等になっている。県が過去に調査した周辺地域の地下水概況調査結果に異常は見られない〔7〕。